

## 「やってはいけないことをつぐらない」という職場の モットーを知り「働くこと」に前向きになれた

### 参加のきっかけ：

就職先を考えるにあたり「スポーツ」「観光」「公務員」という三つのキーワードを考えていました。インターンシップ先の株式会社オガールは、町有地を活用して官民が連携し進められているプロジェクトで、全国有数のバレーボール拠点でもあります。私自身もバレーボールをしてきたことに加え、視察や見学のため多くの人が全国から訪れるこの施設で仕事を体験したいと思い参加を決めました。実は夏休みに岩手県内の1社に応募していましたがコロナの影響でキャンセルとなり、今回が岩手県内で初めてのインターンシップとなりました。

### 参加してみて：

特に印象に残ったのは「やってはいけないことを、つぐらない。思いついたらまずやってみよう」というオガールのモットーです。役場の方から、町役場の仕事では「なかなか自分のやりたいことはできない」が、ここでは「自分のやりたいことが実現できる」というお話がありました。自分のこれまでのことを振り返ってみると少し型にはまった中でやってきたとの思いもありました。これを働くことに結び付けて考えると、働く場でも好きなこと、やりたいことができるのかもしれないと感じ、働くことに少し前向きになりました。職場の雰囲気も良く、自分から知りたいこと聞きたいことがあれば積極的に話かけることができました。これまで話しかけられるのを待つことが多かった自分にとって、自信になりました。

### 学生へのアドバイス：

「とりあえず行ったほうがいい！」と伝えたいです。ちょっと勇気は必要かもしれませんが、一歩踏み出したことで考え方が変わりました。仕事に対してマイナスに思っていたことがプラスにイメージが変わりました。

### voice: サポートデスク スタッフから

山口さんは小中高とバレーボールを続け、大学も体育学部に入りました。日本でも数少ない専用バレーボールコートを持つオガールは就活の軸に合うインターンシップ先でした。オガールは独特の方法で官民連携の町づくりの拠点施設としても注目されています。インターンシップのプログラムでも公的な視点から民間のサービス業の視点まで体験できたのではないのでしょうか。「現場の人に話を聞き、その人の人生や生き方を学べた」と感想を話していた山口さん。企業や社会を知るため、これからも多くの人の話を聞く機会を得て、就活に生かしてください。

### 体験したのは /

あまね  
山口 有稀音さん  
(岩泉町出身)

東京女子体育大学 体育学部

小学校から高校までバレーボールをしていました。バレーボールはチームワークが要求されるスポーツで、全体をみて必要なことを臨機応変にすることができるようになりました。インターンシップ先のオガールもバレーボールを通じて以前から知っていました。

### 実施プログラム /

#### 紫波町の拠点施設で2日間のインターンシップ

#### 実習先：株式会社オガール（サービス業）

所在地：紫波町紫波中央駅前2-3-12

事業内容：  
ホテル・オガールイン、体育館・オガールアイーナなどの運営

#### 実施プログラムの主な内容

##### 1日目

- ・「男子バレーボール東北大会」の受け付け
- ・ホテルのチェックインシステムの説明を受ける
- ・公民連携による駅前公有地活用「オガールプロジェクト」の話を聞く
- ・町内を視察し、施設の説明を受ける

##### 2日目

- ・「男子バレーボール東北大会」の受け付けと大会運営のサポート
- ・ホテル室内の清掃
- ・「街おこし会議」への参加
- ・バレーボールアカデミー「キッズスクール」のコーチから指導のあり方について聞く